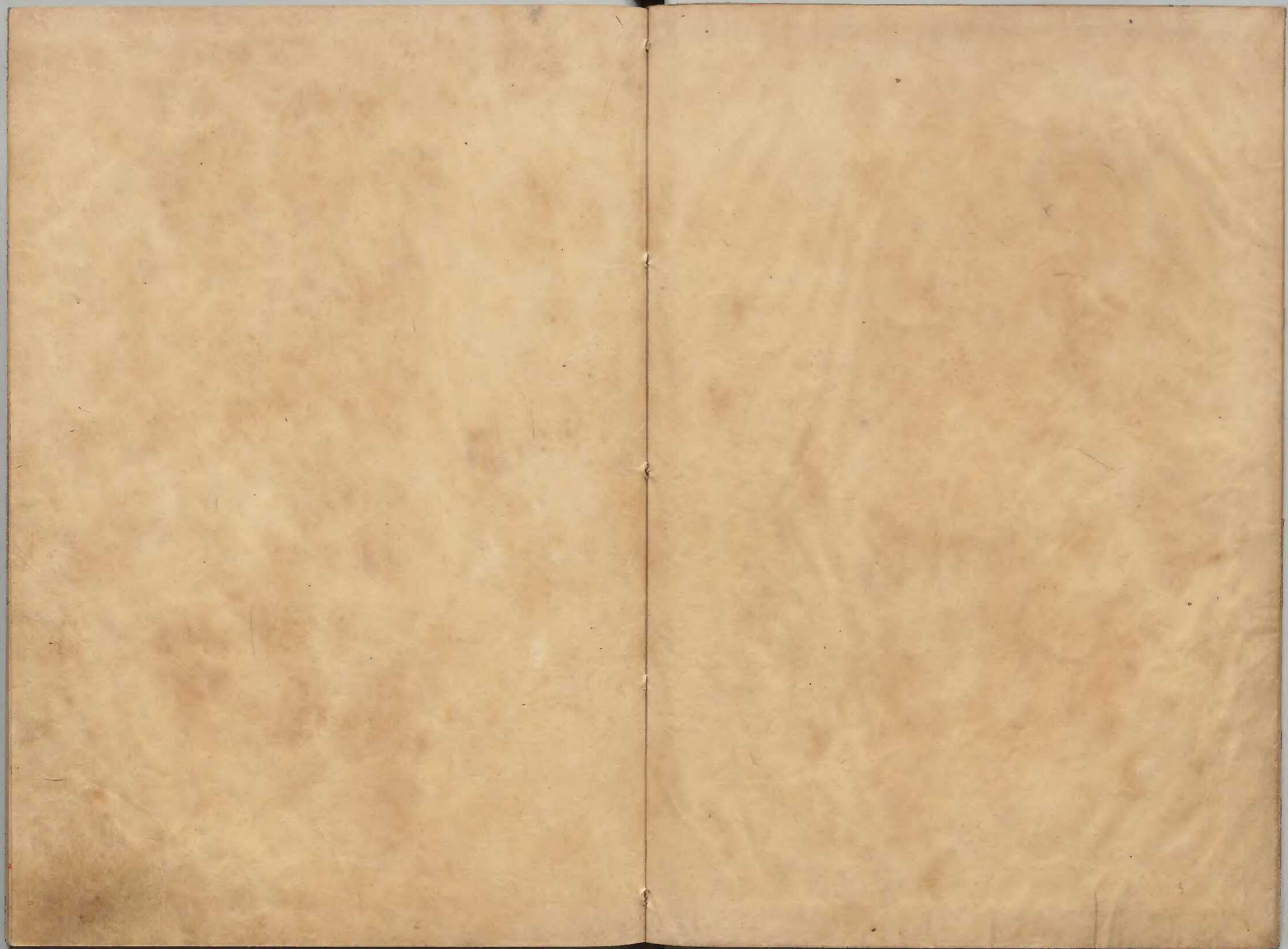


寛永諸家譜

平氏十九冊之内
支流

内閣文庫		
番號	和	20199
冊數	186	(75)
函號	特 76	1





戸沢

奥山

岩下

山本

山口

長田

中村

森山

大茂

寛永法家系圖傳

平氏

支流

戸沢

家傳
平將軍貞盛

後胤

衛盛

飛驒守

淺草文庫

奥列船子取滴石店戸込川口行
け破り戸込と号を板り列
山本郡門店小うつ系

親盛

飛騨守

亮盛

平九郎

勝盛

飛騨守

言盛

浪部左衛門

英盛

飛騨守

茂盛

浪部左衛門

伊盛

飛騨守

行盛

平九郎

量盛

浪部左衛門

泰盛

飛騨守

永盛

飛騨守

羽列角館ふりつり

久盛

治部左衛門

奇盛

治部左衛門

仁盛

早川卿

秀盛

飛騨守

道盛

飛騨守

盛安

治部左衛門

天正十八年秀吉相列小田原進發此

時佐守一軍中一ありと病

少と死すふりのぐみと秀吉小

法名くいこく子ありつふ
六歳なりこれ格入り軍中
去るふ事ありは中平九郎
といふ者あり孫はくをれを
て軍士ありうあんとし考を是
を捨らせり時六月六日あり
廿二歳少く死す 法名中山

光盛

平九郎 生國おれ

文禄元年秀吉之韓を征伐此とき
修をいへ格別格入りしり途中
しをいへ死す歳十七 法名月山

政盛

九郎五郎 右京亮 生お同前

光盛格入りしをいへ死するがゆ
へし遠くあり家後戸兵相換守

とく者ありふりそ金森宗玄ほりけん法下ほうげり
くろりていえん先せん後ご小田原軍中せうでんぐんちゆうにて
死ししち法下ほうげ部ぶを捕とらまま嫡子てくし九郎くわ五郎ご
とく者ありすふりそかから考かう者しや此これれ
うりきしたまふふ不ふ可かなりなり福ふくくくは
は子こをを一いつとと教きやう督とくととははけけりりん
とく者ありすふりそこれこれりり同心どうしん甘かんとと相さう摸も守しゆ
は事じととりりとと又また

大指現たいしゆげんりり云い上じやうとと 佐さりりいいとと戸と沢ざい

氏うぢ兄あに中なかつとと度た此こ軍陣ぐんぢん小こ休しゆををしし志しれ
もも不ふ幸しやうししとと死しととたたとといいいいけ
ちちとといいふふももゆゆがが本ほん領りやうととななままつつ
ききんんやや安あんりりををひひくく

大指現たいしゆげん宗そう玄げんととおお計けいとと考かう者しやおおははおお
いいまましし考かう者しや

大指現たいしゆげん此こをを聞きくく此こ志し切せつをを感かんとと考かう
督とくををたたままふふ時とき又また改かい盛せい八はち歳さいなりなり肥い列れつ
名な後ごををりりををひひくくととめめとと考かう者しや

一 福と乞ひよふ

大指現北沙邊淺く少家可なり

交長の年上叔系勝

大指現よりうしよきこころは是より

うりく湯池討北きあに因東湯

進發北時上方よりをひくる石田

三成謀叛を企

大指現中津よりゆりく上流

こまふ家よりよひく中川系為村

を法所一揆使として京上おねる

か内内相列山敷よやういぬとら改盛

か北下知より志くい二百五十騎を

いさひく相列林邊よりお張をもと

よも系勝殺てお銭りどるかゆへり

お羽子か下知より志くい改盛も又

海陣と

同六年

大指現京上お羽子とて京勝か

分酒田北城をうけとじしじ城申ふ
信田修理亮川村吉房とつ者ありと
これをまのふれとて東勝が通所なり
時よお相寄が家長純近越前里見越守
志村氏等三人政盛が家長戸次相持守
が共二百騎と合とてこれをうとむ
家一をひく民屋を焼けらゆて
志まじりし是をせじ信田修理亮は
なり降参と

同七年

大権現北泊命をうけゆりく申候とあり
そ免常列多賀郡をひくて可名
北地をうとむ

同十四年

名徳院殿北修をうけゆりくは立位下
下新と婚禮の命をうもく青江
並次北御腰抱をたまふ城り奥代の業
とつて

同十九年大坂御進發此時

大指現をい

右酒院殿此御命をうり相列小田

の城をまゐ

元和九年大坂御此時武列

此城をまゐ

同八年

右酒院殿より相列家と那小をい

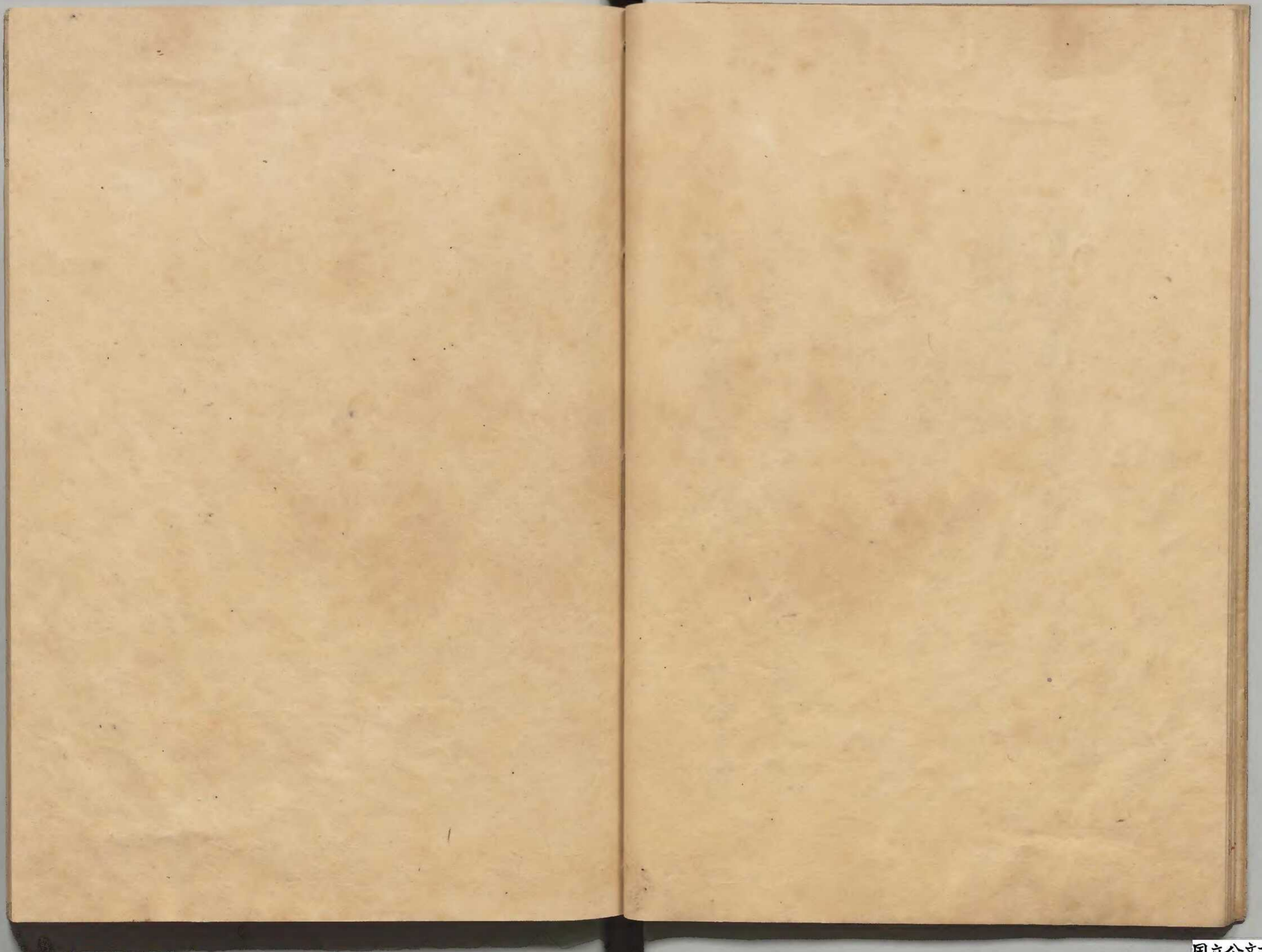
六萬石此城をたす

寛永二年同發此城をうり家

をいりいふ二百石をうり

幕級候前

幕級為丸九曜



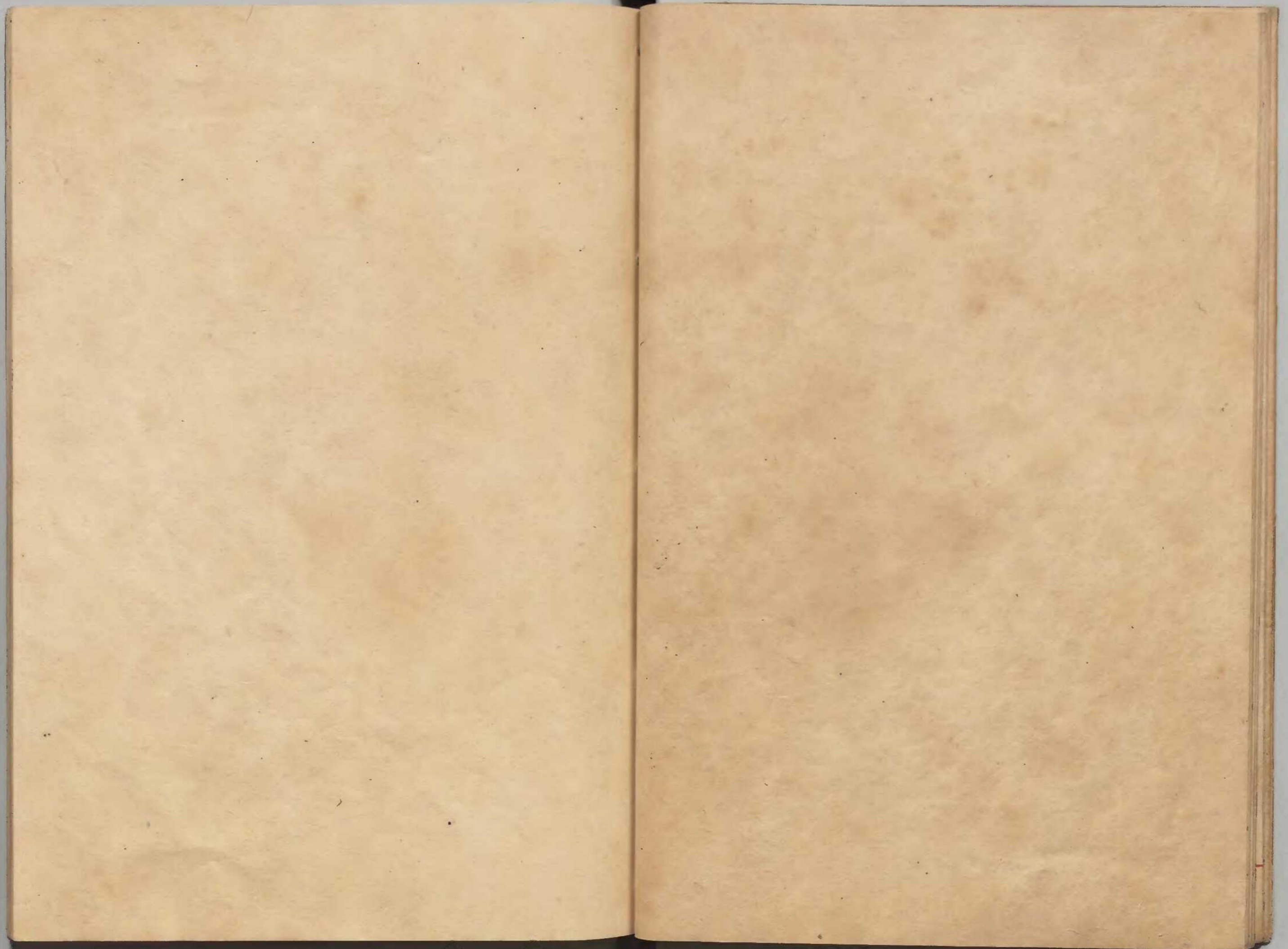
重成

依^ぢ志^ぢ水^ぢ村 牛^ぢ國^ぢ同^ぢ所

● 重定

依^ぢ渡^ぢ守 生^ぢ玉^ぢ尾^ぢ渡
秀^ぢ吉^ぢ一^ぢ津^ぢふ

奥山



● 守 守

岩下

又右馬 中 國 信 濃
道 田 下 野 守 と び 右 馬 依 又 信 濃

守 守

角 守

生 玉 同 前

大指規甲列沖入國の村蓋田太歩つ依山
小屋より楯籠ふ敵共たよあ魚り
これとくこひく新府へ通路なり
守瀬山路より攀躋り志とく
志希とくげりく蓋田氏濠街ては
大指規よりあかされ流くくさるる
同心十人となつた
開ヶ原涉陣舟より大坂沖陣より
供養

寛永元年三月百七十歳少く死す

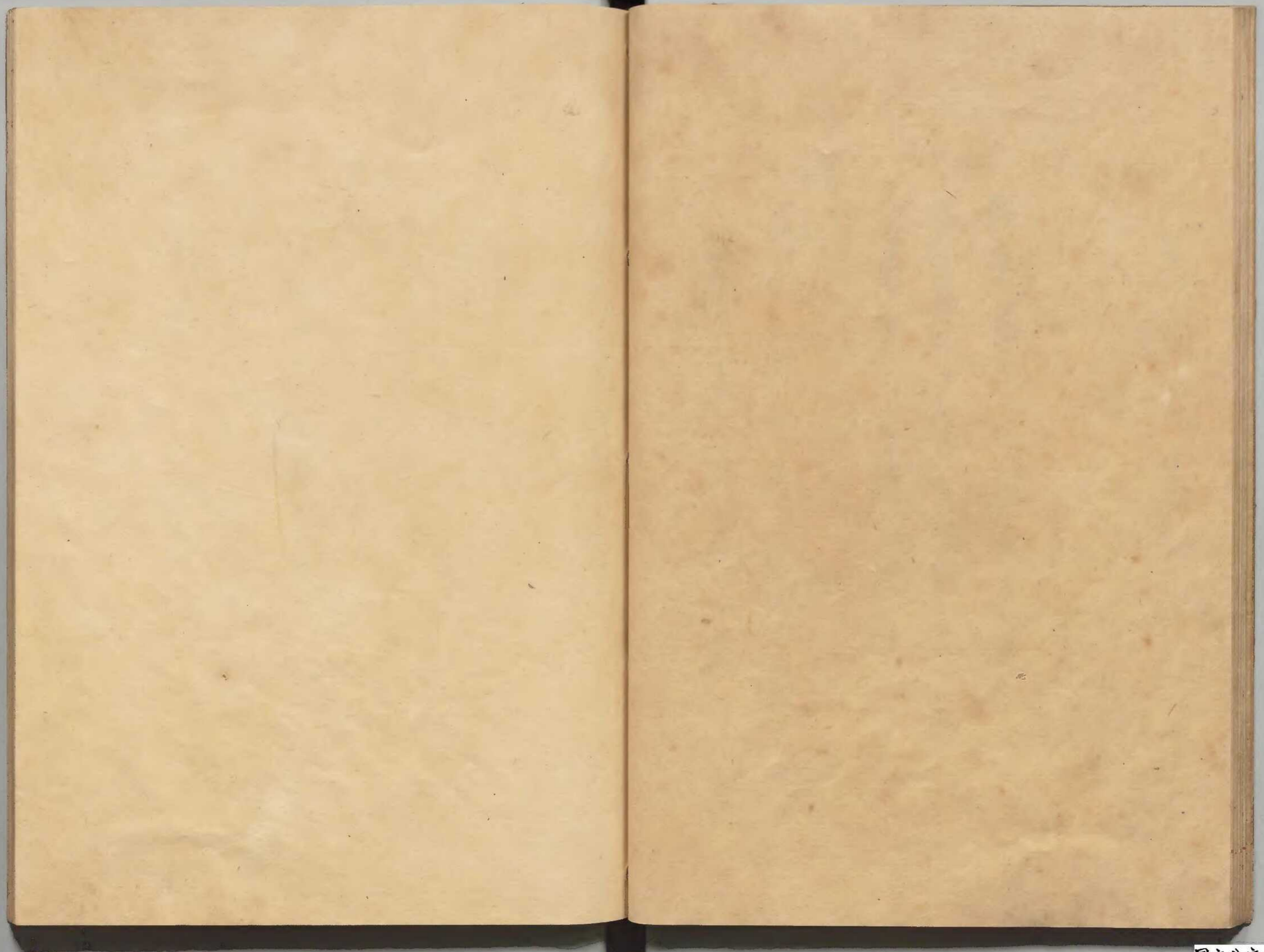
守久

甚右歩 生國と母

右徳院敵とくひ

將軍家より流くくくさるる

家代紋丸の内より根藤



山本やまもと

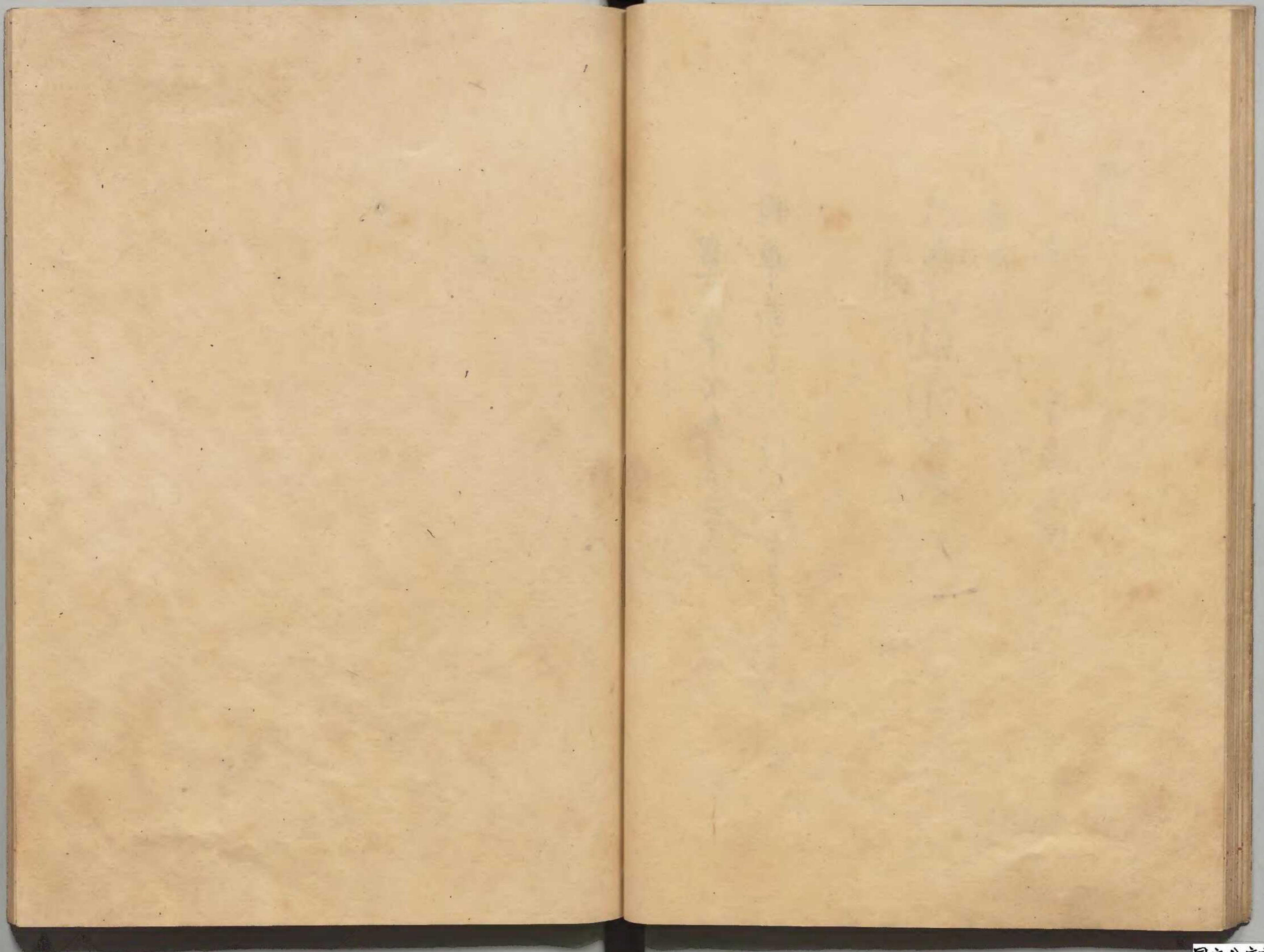
●
勝道かつどう

子こ右みぎ弟あに

生國なまくに為な後あと

大指おほさし現ま一ひと法はふ之の法はふ也なり

秋あき月つき



山口 やまぐち

● 長政 ながまさ

甚助 じんすけ 生國山城守 治田原
信長 のぶなが 一子 ひとりこ

克廣 かつひろ

藤丸 ふじまる 生 近江 神樂

實々多岐尾口即光推が子なり長政
や—なひて子とて

信長一法ふ

天正十年六月二日明智日向守光秀

信長をうら—時

大指現山城國宇治田原よりきこりなむ

又長政が居城より八津北時光廣と又

宇治田原よりあり是より信長と

近江國神樂北小川より—時

大指現實父光雅が居城より入津ありす

よ—て伊豫北白子より—

—光廣春の父長政実父光雅

二人北家信をいさひく信長と考を

大指現へ忠をたぐりてをいれり忠父

北邊領とのう—むけ時

大指現領地六百石北湯米京とたふ

安長十八年

大指現光廣よりこれの切を指がて

紙地とくくふりん
大坂陣お未敵り光廣 鉤命を
ふゆり水井右近守り
修く 法ひ夕た南か

光正

左平太 生玉同前
大坂陣北とく光正光陣をのぐ
友寺和泉守守り
てお陣

元和五年正月十七日
名酒院敵り
寛永三年六月
將軍家り

光俊

小幡次 生玉同前
寛永三年
將軍家を

同十三年より清書を伴ふ
同十五年清切米とす

家此紋獅子と牡丹丸

長回

白次

森八郎

生國之河

天文年中尾列北勝長崎より河

時之別大漢北口上乃其の神河井

並大漢と名く尾法へ名せん

と白次いり

廣忠郷

勝童かつどう

権三郎 生國なつくに氏茂うぢの茂河内

將軍家より侍之うぢの茂と云ふ

勝童かつどう

傳六郎 生國なつくに之河

右衛門殿より侍之うぢの茂と云ふ
河内かゝの役やくを侍うぢの茂と云ふ

勝童かつどう

傳六郎 生國なつくに氏茂うぢの茂

幼少わか此時

將軍家より侍之うぢの茂と云ふ

寛永かんえい五年十一月十六日うぢの茂

大番おほばんを侍うぢの茂と云ふ

忠家

徳云来 生國武苑戸

寛永十一年

將軍家より賜^{たま}りて

同十二年より大番と侍と

忠正

忠云来 生國武苑戸

大権現より侍之をくま川不

元和元年同六月廿四日より病死

法名露元

重政

十右史 生國武苑戸

享長八年より

右近衛殿より侍之をくま川不

寛永十六年十一月より天樹院殿

了法不

白^{あき}茂

建^た年^い 生國冬河

大指現^い一^い法^い人^いを^いく^いま^い川^い家

安長十一年九月十日白^いふ^い死^い也

白^い久

平^い定^い部

元和五年十一月五日白^いり

台德院^い融^い一^い法^い人^いを^いく^いま^い川^い家

白^い勝

金^い年^い 生^い未^い成^い院^い戸

安長十一年九月十日白^いり

大指現^いを^いく^いま^い川^い家

台^い德^い院^い融^い

將軍^い家^い一^い法^い人^いを^いく^いま^い川^い家

白信

三大丈 生虫茂苑河

寛永七年九月廿日

右徳院殿

白改

清志郎 生國三河

將軍家湯三代

白改

次郎志郎 生國茂苑河

元和二年

右徳院殿

白改

久志郎

元和三年十月十日

將軍家ト一ツクニシテ

白糸

太師丸丸 玉玉之河

白廣

七十脚

玉玉武苑江戶

赤の段丸丸 肉よ二柏の糸

長回

●
吉久

理物 牛國之河

天正十年

大指現之州あかされ流之くまま州あ

小田原陣お奥列陣お方度お休お也お

交長十年六月六日あ病死あ

吉次

生理物 生必武勇

安長十二年より

大指現より此のたぐひなり大坂まで

乃涉陣より此のたぐひなり

右衛門殿

將軍家よりつとむるなり

寛永三年に増百石とす

同十年又増加増とたすなり

六百五十二石なり

吉次

七郎吉次 生必同前

寛永九年より

將軍家より賜^まり

同十三年より此のたぐひなり

家^ノ此^ノ級^ノ屯^ノの内^ノ小^ノ枝^ノ柏^ノ此^ノ系^ノ二

中村

之高

赤之右馬府 生國三河
廣忠ひろたけより 法之しほ人ひと在あり

法名しほ快順くわいじゆん

之盛

赤之右馬府 生國三河

大指規より法へさくまう

法名玄秋

之成ゆきなり

本之右巻の射 生糸を以

大指規より

右酒院敵より法へさくまうり大坂

五沙陣より法へ 法名常雄

之成ゆきなり

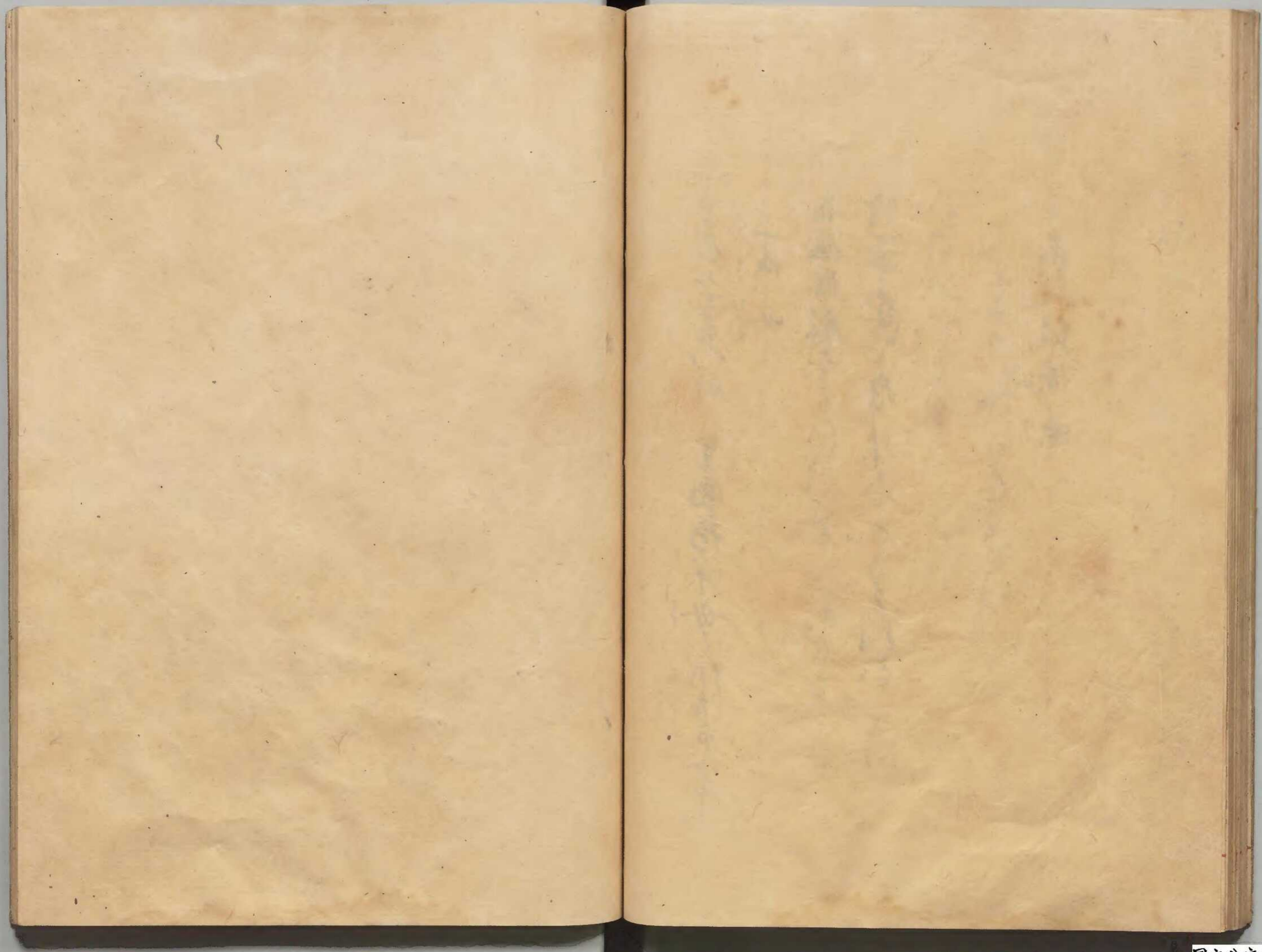
本之右巻の射 生國柄津母より法へさくまうり大坂

一成ひさしの女

右酒院敵を以

將軍家と稱し

家此級根ね根ね根ね



森山

信之平氏たりと内き教
 代河列森山一信すも格人
 氏とさうのち信列依久那
 ふうつり教代居信又これ所を
 なるも森山と号しと系南給夫
 す家格人り今言先祖と志
 是とくあははは

をくげます

永祿七年川中橋合戦の時総討志く

首級をゆくり

元禄三年三方原合戦の時首級を

ゆくり

武田信玄とすめ小田原門り

いし海時先陣小山田備中守様下

り志くく一我切をくげます

お志はく軍切あら格へり世願

あきくす流文いまにをいしく取持と

ま反勝頼り一法之横目と形ら赤原

敷通いよたあれあり

天正三年長篠合戦此時葛原り池

ひら軍切をくげます

甲州高尾の時勝頼り志くくひ飯沼

より新府りいし海勝頼後盛ふつあ

くいしく七年をあらめ武田丸馬物小

きくく一丸馬物り一籠城せハ

汝あらず後浩とすべし
後浩のうまをすす
小諸よりをひく
上列小幡より逃さ小幡と信守接
兵を請す
の命をうま
郡中此浩と申す
のふれり

乃城りり伊豫守をり
信忠一湯と信長薨去れぬ
大指現小糸氏改氏
時依久那大寺小糸氏
後盛蘆田大湯つ依
と一古平をあつめ
とす

大指現法地之挺
と其近与罪か造跡

久
此
紋
執

一
を
ひ
く
紋
地
を
し
る

森山もりやま

● 信ふり 豊り

そは 廿國ふたご 信ふり 忠の

氏うぢ 田た 信ふり 吉よし をを 少すく 比ひ 勝かつ 頼たの 一ひと 決けつ ぶ

少すく 一ひと 七しち 十じゅう 三さん 少すく 一ひと 一ひと 死し 一ひと 法はふ 名な

大たい 吉よし 定ぢやう 孫そん

秀盛 ひでしげ

全右衛門 牛玉 同前

大権現甲列佛八國乃附秀盛軍田 おんこう

あり

岡ヶ原陣より修年病死七十歳 いせうし

法名小免良山居士と号す

永盛 ながしげ

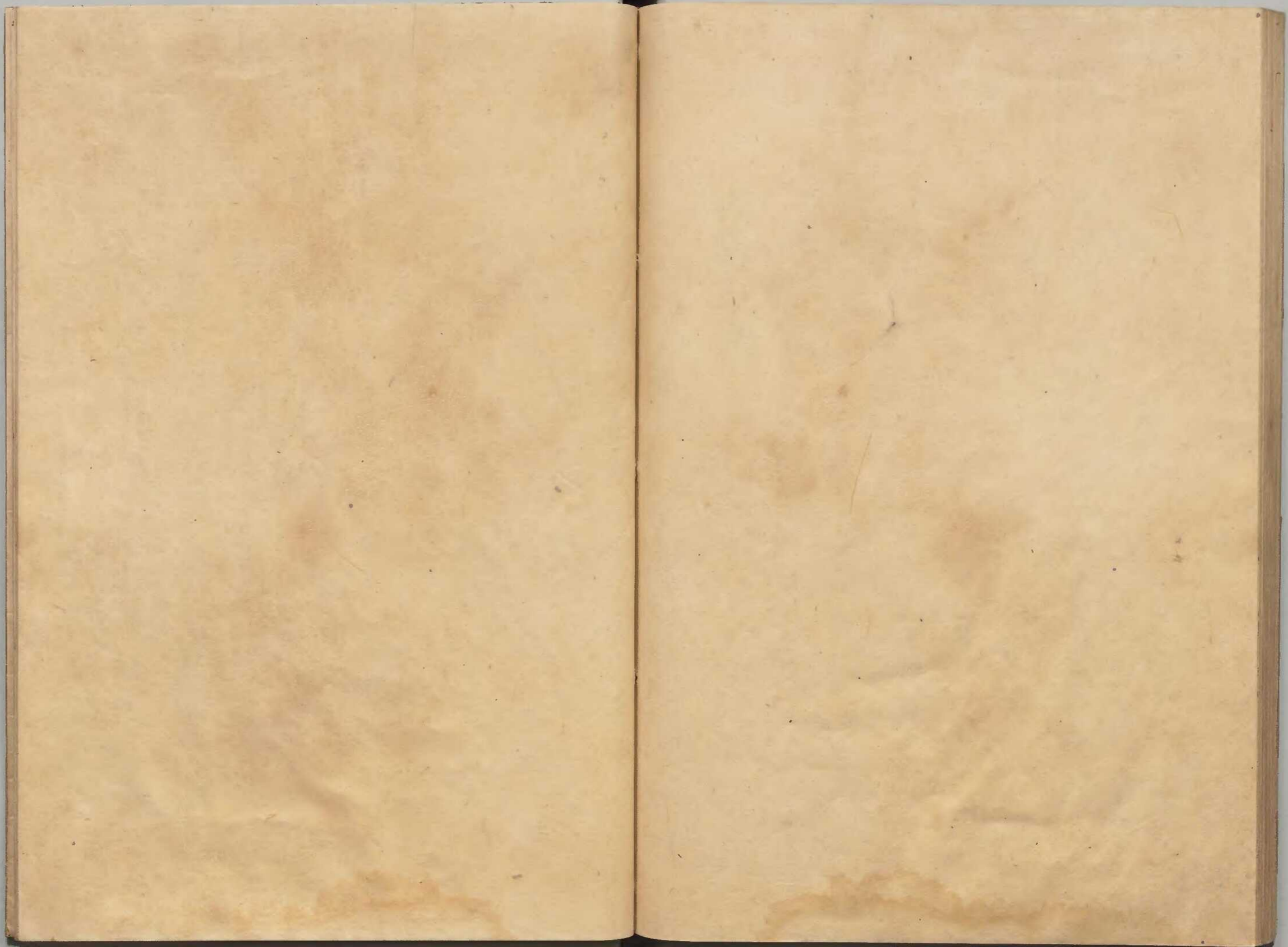
全右衛門

白滝院殿より法入とす

大坂西河陣より修年殿

將軍家より法入とす

家此段執 いんぎ



大茂 おほしげ

● 冬 ふゆ

九清の依 七國武苑

島山北一簇をりりく六郷より伝る

以りり六郷をりりく氏山より六郷

四郡より十代乃孫をりり枝々のち

流源一々懸南武田共部大物下

家乃級祖父ハ小文村徳父より
園の内より割養とりら也

● 集

大作
氏と

流るる 生國之河
大樽現り 流るる

果

源左郎 生國田家

大指現より法入りてくま川家

安長七年四月十日より病死歳

二十八法名道洪

正音

源左郎

生國田家

安長十一年より安長

大指現より法入りてくま川家

右徳信殿よりつくとくま川家

元和九年歳余よりくま川家

將軍家より法入りてくま川家

寛永十二年四月より病死法名

光厳

正成

源之師

生國同好

● 集

大作

練古書 生公之河長傳

大指現より法之たぐり川系

安長元年十二月より病死年六十

五 為秋源孫信士と号す

正次

孫右馬 けふ武苑江戸

孫右馬 某か嫡孫なり又疾ありと

月々正次祖父の家督とほぐ

右衛門殿とよひ

將軍家より流人きそつ家

家乃く紋んたん巴ま

